

万博「絆」Kizuna 通信

Vol. 13

2024年7月17日 発行

プロデューサーも
万博準備に全力投球

万博の意義とは、世界の多くの国がその国の文化や伝統、生活の魅力の全てを 持ち寄り、半年もの間「共に過ごす」ことだと考えます。

共に過ごすことで対話が生まれ、世界と共に未来をつくり出します。

「いま世界がそこに集まっている」ことが直観できる大屋根リングそして会場 デザインを、ぜひ実際に体験しに来てください。

藤本壮介
会場デザインプロデューサー

開幕に向けて準備は着々と進んでいます。万博には大勢の方が携わっていますが、それぞれの立場から万博を成功させるために力を注いでくれています。

一般の方からも万博の開催を楽しみにしているという声をたくさんいただきます。

万博はみんなで未来をつくる催しです。大阪・関西万博を成功させて、いのち輝く未来社会を共に実現させましょう。

石川勝
会場運営プロデューサー

大阪・関西万博の催事=イベントは世界中の人々で行う大きな祭りだと考えます。

それは国内にいながらもまるで世界一周をしているかのような、人生を変えるようなセレンディピティに出会うかもしれません。

184日間、世界中の人々が参加でき、万博会場が一つになる願いのモーメントを考えていますので楽しみにしててください。

小橋賢児
催事企画プロデューサー

今週の週報の内容

1. 海外パビリオンの状況

- ・ タイプB・Cの9棟の工事完了
- ・ 7/11 ヨルダンにタイプB引き渡し

2. 先週の主な活動／今週以降の予定

- ・ 7/10 博覧会協会とANAが連携し、NFTを活用した、関西3空港周遊スタンプラリーを実施
- ・ 7/11 十倉経団連・博覧会協会会長が夢洲視察

3. 販売・募集の状況

- ・ チケット販売: 322万4799枚 (7/10 現在)



今週の大阪・関西万博 **週報** (7/9~7/15)
 ~ 開催まであと**271**日です! ~



1. 海外パビリオンの状況

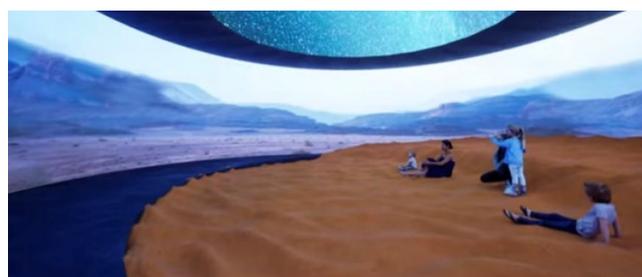
- 海外パビリオンのうち、協会が建物を用意する単独館（タイプB）や共同館（タイプC）の建物の工事が完成した。全9棟あり、順次敷地が参加国に引き渡され、単独館（タイプB）については内外装・展示工事、共同館（タイプC）については展示工事が施される予定。



左上、右上：タイプC内観・タイプB内観、左下・右下：タイプC外観・タイプB外観

(写真提供：博覧会協会)

- 7/11（木）、ヨルダンに対して博覧会協会が建設し参加国が内外装の設計を行う単独館（タイプB）が引き渡された。ヨルダンパビリオンのテーマは「未来を紡ぐ」。現在から過去に遡（さかのぼ）ってヨルダンの歴史や文化を紹介。メイン空間には、奈良県上北山村産のスギを用い、ヨルダンの砂漠の砂を敷き詰める。同空間は万博終了後こども園として使われる予定。



左、右：引き渡し式、メイン空間イメージ図

【記事 URL】 <https://www.expo2025.or.jp/news/news-20240712-04/>



【現在の参加国等の状況】(7月11日現在)

- ・独自パビリオン(タイプA、タイプX): 52 各国
- ・協会用意の単独館(タイプB): 17 各国
- ・公式参加契約締結国数: 123 各国・国際機関
- ・敷地を引き渡した国: 45 各国
- ・同共同館(タイプC): 92 各国
- ・施工事業者が決まった国: 43 各国
- ・着工済みの国: 35 各国

2. 今週・先週の主な活動/今週以降の予定

□ 7/10(水)より、博覧会協会とANA(大阪・関西万博PRパートナー)が連携し、NFTを活用した、関西3空港周遊スタンプラリーを期間限定で実施。①大阪国際空港(伊丹空港)、②関西国際空港、③神戸空港で各1種類、計3種類のNFTを配布するとともに、3空港のNFTスタンプラリーを達成された方には飛行機写真の特別なNFTを配布。

※NFT(非代替性トークン): ブロックチェーン上に記録される一意で代替不可能なデータ単位

- 必要なアプリ: EXPO2025DIGITAL WALLET (<https://expo2025-wallet.com>)
- 参加費: 無料
- 期間: 2024年7月10日~2025年1月10日
- 配布場所:
 - ・大阪国際空港(伊丹空港): 南ターミナル2階 ANA自動チェックイン機横
 - ・関西国際空港: ANA国内線カウンター
 - ・神戸空港: ANA5番カウンター



(配布するNFTイメージ)



【出典】<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20240710-02/>

□ 7/11（木）、十倉雅和・経団連会長（博覧会協会会長）は大阪・夢洲で開催に向けて工事が進む万博会場を視察し、万博のシンボルとなる大屋根リングや海外パビリオンの建設状況を視察した。十倉会長は大阪市内で関西経済界の関係者と懇談した、「工事が着実に進んでいる様子を視察し、開幕まで300日を切っているという実感がわいた。今後、参加国などからコンテンツが発表されてくるにつれ、万博への関心が高まっていくことを期待したい」と述べた。

懇談のあと、十倉会長は記者会見に臨み、「建設については、事故なく安全に、スケジュールどおりに進めていくことが大事で、どういう運営をするかが焦点となるので、いよいよ正念場だ。前売券の販売についてはコンテンツの発表やパビリオンの予約開始で関心が高まってくると思うので、販売目標である1400万枚については維持したい」と述べた。

3. チケット販売の状況

◇ チケット販売枚数 : 322万4,799枚（2024年7月10日現在）

4. 報道等での主要な指摘事項と事実関係

（1）参加国のパビリオン出展形態について

指摘事項

■ 独自パビリオンのうち、参加国自身が建設を行うタイプAでの参加国が47か国になったとのことだが事実関係如何。

【事実関係】

- 本年6月末までに、博覧会協会が参加国からパビリオン建設の準備状況を聴取した結果、52か国が独自パビリオンでの参加が見込まれることが確認された。内訳は、参加国が独自で建設する「タイプA」が47か国、博覧会協会が参加国の代わりに建物を建築する「タイプX」が5か国となっている。
- 現時点（7月11日時点）では、52か国が独自のパビリオン、単独館（タイプB）で17か国、共同館（タイプC）で92か国、あわせて161か国が参加予定となっている。
- どのような出展形式での参加であっても、各国はそれぞれ創意工夫に富んだ出展を予定している。すべての来場者にとって魅力ある万博となるよう、参加国とともに、関係者一丸となって準備を進めていく。

(2) 会場建設現場における事故について

指摘事項

■ 中国パビリオンにおいて発生した事故後の対応如何。

【事実関係】

- 7/5（金）12時ごろ、中国パビリオンを受注している中日建設株式会社（愛知県名古屋市中村区）の工事中に、鋼製の建設資材が搬入車両から荷揚げ中に落下する事故が発生した。釣り上げ作業に使用するスリングが損傷したことによるもの。人的被害はなかった。

- 7/9（月）、中日建設より博覧会協会に対し、釣り上げの用具など設備改善の他、作業方法や安全管理体制の改善について再発防止策を報告。博覧会協会は妥当であると確認し、工事停止の解除を通知。7/10（火）に工事は再開された。



【出展】公益社団法人 2025 年日本国際博覧会「お知らせ」

<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20240709-04>